

N E C

Express5800 シリーズ

ESMPRO[®]/AutomaticRunningController

Ver3.3

UL1046-A01

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.3をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.3をお使いになる前に、必ずお読みください。

Windows[®] XP、Windows[®] 2000、Windows Server[™] 2003、Windows NT[®]、Microsoft[®] は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ESMPRO[®]は日本電気株式会社の登録商標です。

CLUSTERPRO[™]は日本電気株式会社の商標です。

Smart-UPS、PowerChute[®]は、アメリカン パワー コンバージョン コーポレーションの登録商標です。

目次

第1章	製品内容	4
第2章	セットアップの準備	5
2.1	ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境	5
2.2	ESMPRO/AutomaticRunningController の構成列	7
第3章	セットアップの方法	9
3.1	ESMPRO/AutomaticRunningControllerのインストール	9
3.2	ESMPRO/AutomaticRunningControllerのアンインストール	13
3.3	ESMPRO/AutomaticRunningController Client監視機能のインストール	15
3.4	ESMPRO/AutomaticRunningController Client監視機能のアンインストール	15
3.5	ESMPRO_AC環境ウィザードによる設定	16
3.5.1	ESMPRO/AutomaticRunningControllerの動作環境の設定	16
3.5.2	PowerChute <i>plus</i> 連携時の設定情報の削除	18
3.5.3	マルチサーバ構成の設定	18
第4章	注意事項	19
4.1	セットアップ関連	19
4.2	運用関連	20
4.3	ESMPRO/AutomaticRunningController Client監視関連	22
4.4	PowerChute <i>plus</i> 連携関連	23
4.5	ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Editionセット)連携関連	24
4.6	ハードウェアコンフィギュレーション関連	26
4.7	通信ポート番号関連	28
4.8	共有フォルダ関連	28
4.9	バックアップ/リストア関連	29
4.10	AC-LINK関連	30
4.11	アンインストール関連	30
第5章	障害発生時	31
5.1	ESMPRO/AutomaticRunningControllerログ	31
5.2	イベントログ	33
5.3	クラスタシステムでのログ採取時の注意	34
5.4	ESMPRO/UPSManagerのログ採取	34
5.5	ESMPRO/UPSControllerのログ採取	34
5.6	PowerChute <i>plus</i> のログ採取	34
5.7	PowerChute Business Editionのログ採取	34
5.8	バージョン情報	35

第1章 製品内容

ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.3のパッケージの内容は、次の通りです。
まず、添付品が全部そろっているかどうか、確認してください。

- ・ KeyFD 1枚
- ・ ソフトウェアのご使用条件 1部
- ・ お客様登録カード 1部
- ・ セットアップカード (本書)

第2章 セットアップの準備

ESMPRO/AutomaticRunningController をご使用になるためには、コンピュータの環境を準備していただく必要があります。本章の要件を満たした後、ESMPRO/AutomaticRunningControllerのセットアップ¹を実行してください。セットアップの方法は、第3章で詳しく説明しています。

2.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境

ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするためには、次の環境が必要です。

ハードウェア

<サーバ>

- ・ メモリ : 2. 2MB以上
- ・ 固定ディスクの空き容量 : 5. 5MB以上
- ・ HW/BIOS機能(*) : UPSを使用しない構成でWOL(WakeOnLAN)機能を使ってサーバのリモート起動、リモートシャットダウンを利用する場合は、WOL(WakeOnLAN)機能を実装しているサーバOSのシャットダウンで、電源OFFが可能なサーバ

(*)

サーバ本体HWが提供する機能を利用するため、機種によっては機能が提供されていない場合があります。

例えば、BIOS設定項目で WakeOnLAN機能を有効にしたサーバであっても、Windows 2000等ACPIサポートOSでのシャットダウン状態からの「WakeOnLANによるサーバ起動機能」は「HW的に無効な仕様」の機種があります。

Express5800/110Ef、120Ee、120Rd-2等がこれに該当します。

これらの環境は、リモート起動を含め、自動運転の起動機能は実現できません。

また、スタートメニューなどからのシャットダウンの起動にてサーバの電源がOFFされないサーバでは、自動運転の停止機能の場合にも同様に電源がOFFできません。

この場合には、その後の自動起動も出来ません。

これらの機能制限は、サーバ本体のHW仕様等に依存するため、導入の際は、予め使用するサーバ本体HWおよびOSを確認してください。

(同一装置であってもBIOSのバージョンに依存する場合があります。)

※ PowerChute *plus*と連携して自動運転を行う場合にはSmart-UPS相当無停電電源装置²が必要になります。Smart-UPS相当無停電電源装置とサーバの接続方法や運用方法は、Smart-UPS相当無停電電源装置添付の取扱説明書を参照してください。

※ ESMPRO/UPSControllerと連携して自動運転を行う場合には、多機能UPS³ が必要になります。多機能UPSとサーバの接続方法や運用方法は、多機能UPS添付の取扱説明書をご覧ください。

¹ セットアップ : [Express Server Startup]のCD-ROM/媒体にあるプログラムを、固定ディスクにコピーして実行できる形式にすること

² Smart-UPS相当無停電電源装置 : [N8180-11,12,13,33,45,46 N8142-11A,15,16,17A,22,23,24]

旧N コード製品 [N8580-11,12,13,31,33 N8542-02,03,11,15]

³ 多機能UPS (無停電電源装置) : [N8580-19,20,27,28,29,27A,28AC,29AC N8542-07,08,07AC,08AC,12]

<マネージャ>

- ・ メモリ : 1. 0MB以上
- ・ 固定ディスクの空き容量 : 1. 5MB以上

ソフトウェア

<サーバ>

- ・ OS : Microsoft Windows NT 4.0 Server/Workstation
Windows 2000 Advanced Server/Server/Professional
Windows XP Professional
Windows Server 2003 (ESS RL2003/06より対応)
- ・ 連携ソフトウェア
[ESMPRO/UPSController連携による自動運転を行う場合]
: ESMPRO/UPSController (Windows NT版)
[PowerChute *plus*連携による自動運転を行う場合]
: PowerChute *plus* (Ver5.1.1以降)
: UPSSleepオプション (PowerChute *plus*日本語版の無料オプション)
[ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Editionセット)による自動運転を行う場合]
: ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Editionセット)
: UPSSleepオプション (PowerChute Business Edition v6.1無料オプション)
: SNMPサービス

「UPSSleep」オプションは、PowerChute Business Editionのバージョンによっては自動的にインストールされている場合もありますが、PowerChute Business Edition v6.1xの場合はUPDATE媒体「ESMARC-033-004」に同梱されている、

「UPSSleep」をインストールします。UPDATE媒体はNEC 8番街等のUPDATE媒体掲載HPからダウンロード可能です。

「ESMARC-033-004」にはESMPRO/AutomaticRunningControllerのUPDATEモジュールと「UPSSleep」が同梱されていますが、「UPSSleep」のみをインストールしてください。本製品では、「ESMARC-033-004」に含まれているESMPRO/AutomaticRunningControllerのUPDATEモジュールを吸収済みです。

また、既にPowerChute Business Editionを導入済みの場合は、ESMPRO/UPSManager CoreKit Ver2.0以降が必要です。

マルチサーバ構成で運用する場合は、ESMPRO/AC Enterprise または ESMPRO/AC Advance をインストールしてください。

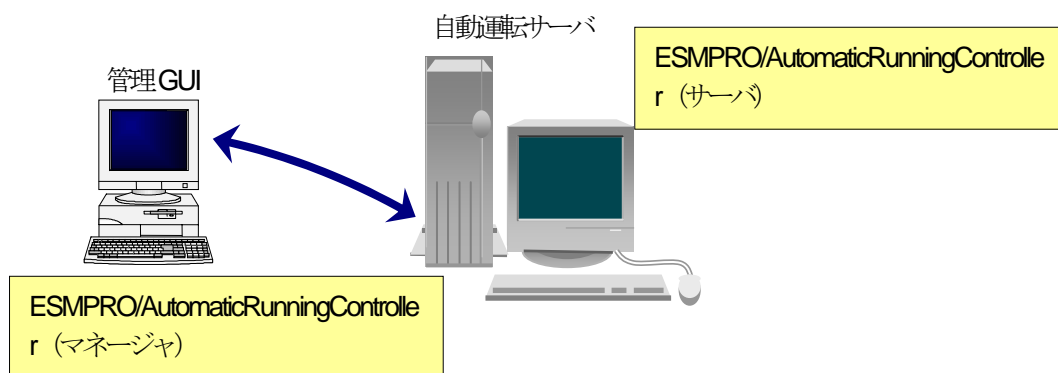
<マネージャ>

- ・ OS : Microsoft Windows NT 4.0 Server/Workstation
Windows 95/98/Millennium Edition (Microsoft Internet Explorer Ver 5.5以上)
Windows 2000 Advanced Server/Server/Professional
Windows XP Professional/Home Edition
Windows Server 2003 (ESS RL2003/06より対応)

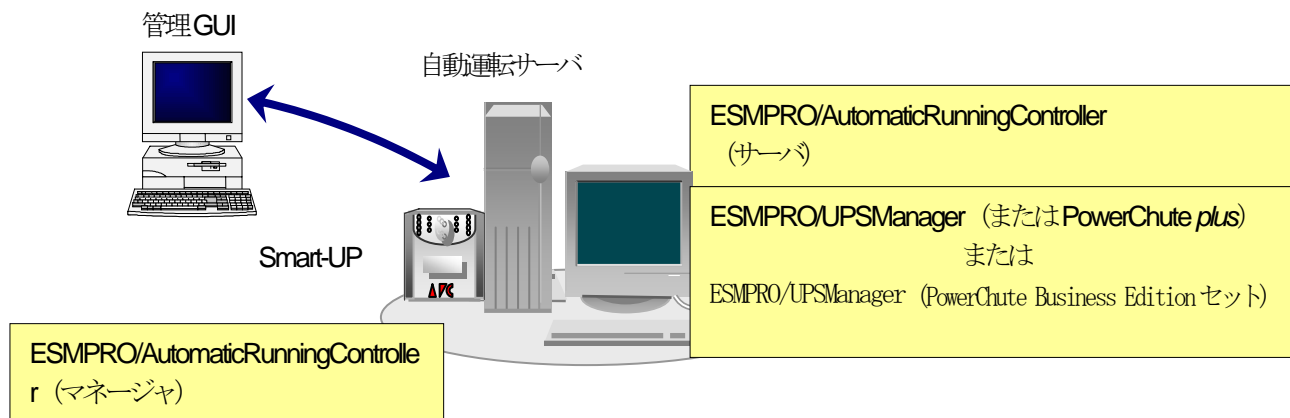
- ※ ESMPRO/AutomaticRunningControllerはMicrosoft Windows NT 4.0 Server/Workstation、Windows 95/98/ Millennium Edition、Windows 2000 Advanced Server/Server/Professional、Windows XP Professional/Home EditionおよびWindows Server 2003上で起動するアプリケーションソフトです。ご使用になる際はそれらのOSがセットアップされていることが必須条件となります。
- ※ ESMPRO/AutomaticRunningControllerは、Smart-UPS相当無停電電源装置を制御する場合にはESMPRO/UPSManager(またはPowerChute *plus*) またはESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Editionセット)と連携し、多機能UPSを制御する場合にはESMPRO/UPSManager またはESMPRO/UPSControllerと連携します。サーバーには、使用する無停電電源装置に応じて適切な制御ソフトウェアをあらかじめセットアップしておいてください。

2.2 ESMPRO/AutomaticRunningController の構成例

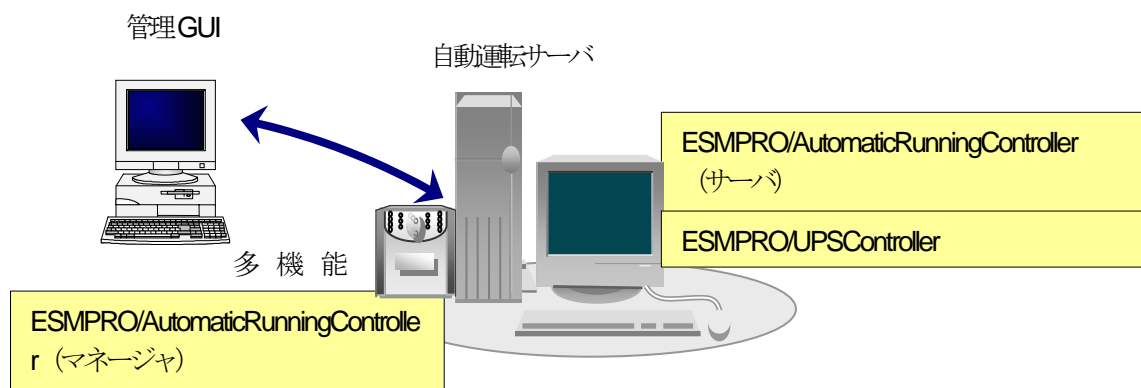
(1) UPS なしの構成



(2) Smart-UPS 構成



(3) 多機能UPS 構成



- ・自動運転を行うサーバは多機能UPSが接続され、ESMPRO/AutomaticRunningControllerで自動運転制御を行います。
- ・ESMPRO/AutomaticRunningControllerをインストールするサーバは、Smart-UPS 相当無停電電源装置を使用する場合は、ESMPRO/UPSManager(またはPowerChute *plus*) またはESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Edition セット)、多機能UPSを使用する場合は、ESMPRO/UPSControllerを、あらかじめインストールしておく必要があります。
- ・複数サーバでマルチサーバ構成を組む場合の構成例は、ESMPRO/AC Enterprise、ESMPRO/AC Advance (共にオプション製品)の資料をご参照ください。

第3章 セットアップの方法

3.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール

- (1) サーバへのセットアップの場合は、『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100 シリーズ用 #1』のCD-ROM をCD-ROM ドライブに挿入してください。#1 と書かれたCD-ROM が複数あるときは、CD-ROM に格納されている PPLIST.TXT を参照して、本製品が収録されているCD-ROM を特定してください。

マネージャのセットアップの場合は、『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100 シリーズ用 #2』のCD-ROM をCD-ROM ドライブに挿入してください。#2 と書かれたCD-ROM が複数あるときは、CD-ROM に格納されている PPLIST.TXT を参照して、本製品が収録されているCD-ROM を特定してください。

- (2) Express Server Startup を起動します。
(起動手順については次のセットアップカードを参照してください)
- Express5800 シリーズ
 - Express Server Startup (Windows[®] 2000 版)
- (3) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」のセットアップには「一括インストール」と「個別インストール」の2通りの方法があります。

◆ 一括インストールの場合：

- ① 「Express Server Startup」から、【インストール】－【一括インストール】を選択すると次のダイアログボックスが表示されます。



図1インストールするソフトウェアの選択画面

- ② 「製品名」一覧から、「ESMPRO/AutomaticRunningController」をダブルクリックします。
- ③ 選択した「製品名」のバージョン/ユーザセット数が「バージョン/ユーザセット数 (UL型番)」に表示されますので、「バージョン3.3 1セット (UL1046-A01)」をダブルクリックしてください。
- ④ 「インストールするソフトウェア」に「ESMPRO/AutomaticRunningControllerバージョン3.3 1セット (UL1046-A01)」と表示されますので「OK」ボタンを押します。
- ⑤ 以降、インストール先ドライブ名、KeyFDをセットするドライブ名、氏名/会社名の入力を行います。

- ⑥ 「ソフトウェア名 ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.3 のKeyFDをドライブ X: にセットして下さい」と表示されます (XはKeyFDをセットしたドライブ名) のでKeyFDをドライブ X:にセットして「OK」ボタンを押します。
- ⑦ ファイルの転送が開始されます。
- ⑧ (4) へ進みます

◆ 個別インストールの場合：

- ① [Express Server Startup]から、【インストール】－【個別インストール】を選択します。
- ② KeyFDをセットするドライブ名の入力要求がありますのでKeyFDをセットするドライブ名を入力し、「OK」ボタンを押します。
- ③ 図1と同様の画面が表示されますので、【一括インストール】の場合の手順②、③と同様にして「製品名」と「バージョン/ユーザセット数 (UL 型番)」の選択を行い「OK」ボタンを押します。
- ④ 氏名/会社名の入力を行います。

(3-1) サーバへの「ESMPRO/AutomaticRunningController」のセットアップの場合

- ⑤ ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップダイアログが表示されます。
- ⑥ 「続行」ボタンを押します。
- ⑦ 構成情報は、次のように選択します。
 [PowerChute *plus* と連携して Smart-UPS 相当無停電電源装置で自動運転を行う場合]
 “装置なしでの運用”を選択します。
 [ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Edition セット) と連携して Smart-UPS 相当無停電電源装置で自動運転を行う場合]
 “装置なしでの運用”を選択します。
 [ESMPRO/UPSController と連携して多機能UPSで自動運転を行う場合]
 “UPS使用での運用”を選択します。
 [UPS を使用せずに自動運転を行う場合]
 “装置なしでの運用”を選択します。
 [Smart-UPS 相当無停電電源装置に SNMP カードを装着して自動運転を行う場合]
 “装置なしでの運用”を選択します。
- ⑧ 「続行」ボタンを押します。
- ⑨ インストール先のフォルダを入力するダイアログボックスが表示されます。
- ⑩ ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするドライブ、フォルダを決定します。パスを入力し直すと、任意のドライブ、フォルダにセットアップすることができます。入力が完了したら「続行」ボタンを押します。
- ⑪ フォルダ確認ダイアログが表示されますので、インストール先のフォルダに誤りのないことを確認して「続行」ボタンを押します。入力をやり直す場合は「戻る」ボタンを押して⑩からやり直します。
- ⑫ ⑪で「続行」ボタンを押すとファイルの転送が始まります。
- ⑬ 「セットアップは完了しました」とメッセージが表示されるとセットアップは終了です。
- ⑭ (4) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」セットアップの終了表示 (P. 12) へ進みます。

注意

⑦の設定は、「ESMPRO_AC 環境ウィザード」(p. 16)により変更することができます。一括インストールを行った場合は、「ESMPRO_AC 環境ウィザード」で動作環境の設定を行ってください。

また、⑦で装置なしでの運用”を選択した場合も、「ESMPRO_AC 環境ウィザード」を起動して、動作環境の設定を行ってください。

(3-2) マネージャへの「ESMPRO/AutomaticRunningController」のセットアップの場合

- ⑤ ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップダイアログが表示されます。
- ⑥ 「続行」ボタンを押します。
- ⑦ インストール先のフォルダを入力するダイアログボックスが表示されます。
- ⑧ ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするドライブ、フォルダを決定します。パスを入力し直すと、任意のドライブ、フォルダにセットアップすることができます。入力が完了したら「続行」ボタンを押します。
- ⑨ フォルダ確認ダイアログが表示されますので、インストール先のフォルダに誤りのないことを確認して「続行」ボタンを押します。入力をやり直す場合は「戻る」ボタンを押して⑧からやり直します。
- ⑩ ⑨で「続行」ボタンを押すとファイルの転送が始まります。
- ⑪ 「セットアップは完了しました」とメッセージが表示されるとセットアップが終了です。
- ⑫ (4) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」セットアップの終了表示 (P.12)に進みます。

(3-3) サーボへのバージョンアップセットアップの場合 (個別インストールのみで可能です)

- ⑤ ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップダイアログが表示されます。
- ⑥ 「続行」ボタンを押します。
- ⑦ サーボにセットアップされている以前のバージョンを表示したダイアログボックスが表示されます。ここでの手順はバージョンアップの方法によって次の2通りに分れます。

・マイナーバージョンアップの場合

「続行」ボタンを押すと、現在の設定データを引き継いだ上書きインストールが実行され、以降の手順は (3-1)⑬に続きます。

・メジャーバージョンアップの場合

旧バージョンのKeyFDが無効になってもよいことを確認するダイアログが表示されます。すでに、旧バージョンのKeyFDを返却している場合は、「はい」を押します。この場合、現在の設定データを引き継いだ上書きインストールが実行され、以降の手順は(3-1)⑬に続きます。

旧バージョンのKeyFDがある場合は、「いいえ」を押して⑧に進みます。

- ⑧ データの引き継ぎを選択するダイアログが表示されますので、以前にセットアップしていた情報を引き継ぐ必要がない場合には、「いいえ」を押します。「はい」を押すとデータの退避が行われます。
- ⑨ 現在インストールされている製品のアンインストールを指示するダイアログが表示されます。ここで「OK」を押すとインストールは中断されます。
- ⑩ ⑨で指示されたアンインストールを実行してください。(アンインストールの方法はESMPRO/AutomaticRunningControllerのアンインストール(P.13)を参照してください)
- ⑪ 再び(3) (P.9)からのセットアップを実行します。
- ⑫ ⑧で「はい」を選択した場合は、(3-1)の作業の中で「設定情報の退避データがあります」というダイアログが表示されますので、「はい」を選んでください。以前にセットアップしていた情報を引き継いでセットアップが行われます。

- (4) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」セットアップの終了表示
セットアップが終了すると次のダイアログボックスが表示されます。

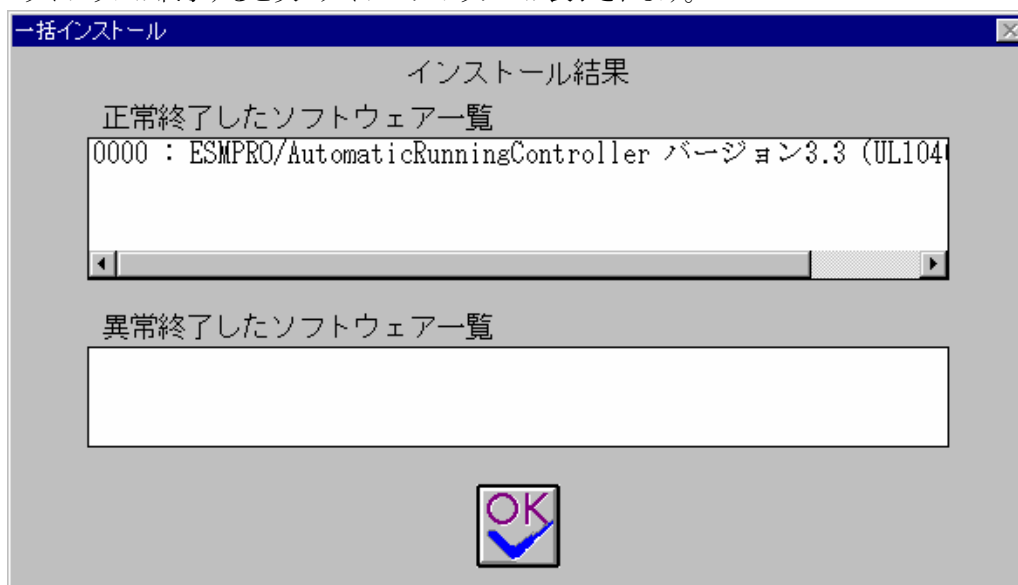


図2インストール結果表示ダイアログ

注) 個別インストールを行った場合はウィンドウタイトルが「個別インストール」になります。

[Express Server Startup]を終了して、システムを再起動してください。

注意

セットアップの実行中に<終了>及び<キャンセル>ボタンを押すと、セットアップ中止の確認のメッセージが表示されます。そのメッセージボックスで<終了>ボタンを押すと、セットアップは中止されます。その場合、途中まで転送されたファイルの削除は行われません。

3.2 ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール

- (1) 対象サーバに ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品 ESMPRO/AC Enterprise または ESMPRO/AC Advance がインストールされている場合は、先にこれらの製品のアンインストールを実行します。（方法については ESMPRO/AC Enterprise または ESMPRO/AC Advance のセットアップカードを参照してください）
- (2) PowerChute *plus* と連携して自動運転を行っている場合は、「PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除」(p. 18) の作業を実施します。
- (3) 対象サーバに CLUSTERPRO がインストールされている場合は、【コントロールパネル】→【サービス】を起動して CLUSTERPRO のサービスを停止します。（サービス名については、CLUSTERPRO のマニュアルを参照してください）
- (4) サーバのアンインストールでは、『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100 シリーズ用 #1』の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入してください。#1 と書かれた CD-ROM が複数あるときは、CD-ROM に格納されている PPLIST.TXT を参照して、本製品が収録されている CD-ROM を特定してください。

マネージャのアンインストールの場合は、『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100 シリーズ用 #2』の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入してください。#2 と書かれた CD-ROM が複数あるときは、CD-ROM に格納されている PPLIST.TXT を参照して、本製品が収録されている CD-ROM を特定してください。

- (5) Express Server Startup を起動します。（起動手順については次のセットアップカードを参照してください）
 - ・Express5800 シリーズ
 - Express Server Startup (Windows® 2000 版)
- (6) [Express Server Startup] から【アンインストール】を選択すると次のダイアログボックスが表示されます。



図3 アンインストールするソフトウェア選択画面

- ① 「製品名」一覧から、「ESMPRO/AutomaticRunningController」をダブルクリックします。
- ② 選択した「製品名」のバージョン/ユーザセット数が「バージョン/ユーザセット数 (UL型番)」に表示されますので、「バージョン3.3 (UL1046-A01)」をダブルクリックしてください。

- ③ 「アンインストールするソフトウェア」に「ESMPRO/AutomaticRunningController バージョン 3.3 (UL1046-A01)」と表示されます。
- (7) 「OK」ボタンを押し、KeyFDをセットしたドライブ名の入力を行います。
- (8) 「ソフトウェア名 ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.3のKeyFDをドライブ X: にセットして下さい」と表示されます (XはFDドライブ) ので、KeyFDをドライブ X:にセットして「OK」ボタンを押します。
- (9) アンインストールが開始されます。
- (10) PowerChute *plus*と連携して自動運転を行っていた場合は、「PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除」(p. 18)の確認メッセージが表示されます。すでに実施済みであれば、「はい」を押してそのままアンインストールを続行してください。実施していない場合は、「いいえ」を押してアンインストールを終了し、「PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除」(p. 18)を実施してください。
- (11) アンインストールが終了すると次のダイアログが表示されます。

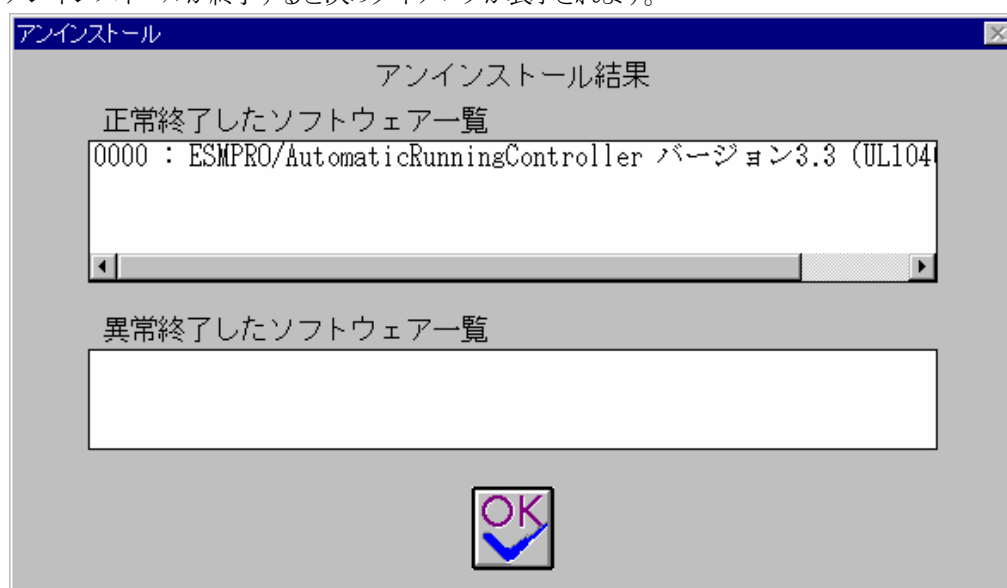


図4アンインストール結果表示ダイアログ

- (12) [Express Server Startup]を終了してください。

3.3 ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能のインストール

自動運転にて、電源の投入／切断監視要因として「Client 監視」を使用する場合は、サーバに本製品 (ESMPRO/AutomaticRunningController) をインストールし、「Client 監視」の設定を行った後、対象クライアントに以下の手順でセットアップしてください。但し、インストールするクライアントのOSがWindows NT、Windows 2000、Windows XP あるいはWindows Server 2003 の場合は、administrators グループに属するユーザでなければインストールすることができません。

尚、「Client 監視」についての説明は、ヘルプを参照してください。

- (1) 監視対象となるクライアントにて、本製品をインストールしたサーバ（共有名「CMSETUP」（サーバにインストールを行うと自動的に作成されます））に接続し、「cmsetup.exe」を実行してください。
- (2) 「インストール」を選択後、「続行」を選択してください。
- (3) Client 監視用のモジュールをインストールするフォルダを聞いてきますので、任意のフォルダを指定してください。
特に、フォルダを指定する必要がない場合は、そのまま「続行」を選択してください。
- (4) インストールが終了しましたら、ログオンし直してください。

3.4 ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能のアンインストール

本製品をアンインストールする際には、製品のアンインストールの前に、Client 監視用のモジュールを次の手順によってアンインストールしてください。

- (1) 監視対象となっていたクライアントにて、製品をインストールしたサーバ（共有名「CMSETUP」）に接続し、「cmsetup.exe」を実行してください。
- (2) 「アンインストール」を選択後、「続行」を押してください。

3.5 ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定

ESMPRO/AutomaticRunningController には、自動運転を行う動作環境を設定するための「ESMPRO_AC 環境ウィザード」機能があります。一括インストールを行った場合や、個別インストールで“装置なしでの運用”を選択した場合は、「ESMPRO_AC 環境ウィザード」により、ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定を行ってください。

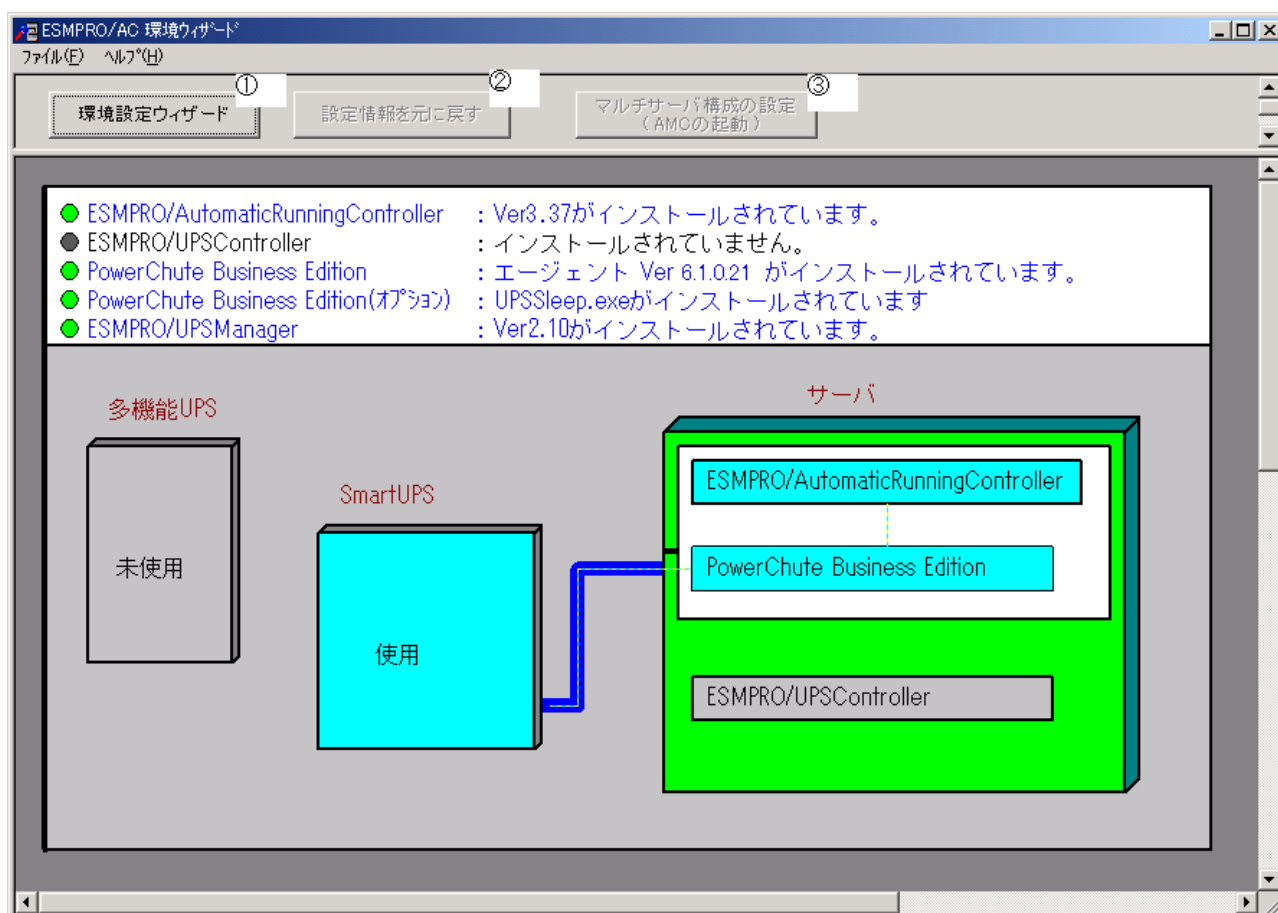


図 5 環境ウィザード画面

3.5.1 ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定（環境設定ウィザードボタン）

「環境設定ウィザード」ボタン（図の①）を押すと、環境設定ウィザードが起動されます。

以下、環境設定ウィザードにおける、連携ソフトごとの設定項目を表す記号を示します。実際に運用する環境に該当する項目のみご参照ください。

- ☐ PowerChute *plus* と連携して自動運転を行う場合の設定項目
- ◎ PowerChute Business Edition と連携して自動運転を行う場合の設定項目
- ESMPRO/UPSController と連携して自動運転を行う場合の設定項目
- △ UPS を使用せずに自動運転を行う場合の設定項目

Step1

- ☐ PowerChute *plus* と連携してSmart-UPS相当無停電電源装置で自動運転を行う場合は、“PowerChute *plus* と連携して自動運転を行う”を選択します。

- ◎ ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Editionセット) と連携してSmart-UPS相当無停電電源装置で自動運転を行う場合は、“PowerChute Business Editionと連携して自動運転を行う”を選択します。

PowerChute Business Editionがインストールされていない場合、Step1 の画面には、PowerChute Business Editionの選択肢は表示されません。

- ESMPRO/UPSController と連携して多機能UPSで自動運転を行う場合は、“ESMPRO/UPSController と連携して自動運転を行う”を選択します。

△ UPSを使用せずに自動運転を行う場合は、“UPSを使用せずに自動運転を行う”を選択します。

選択が完了したら、「次へ」ボタンを押します。

Step2

- Step1 で“PowerChute *plus* と連携して自動運転を行う”を選択した場合、PowerChute *plus* のユーザ通知に関する情報を設定します。

PowerChute *plus* でのイベント発生時(：イベントアクション)のユーザ通知機能を無効にする場合はPowerChute *plus* のユーザ通知をなしにする”を選択します。

PowerChute *plus* のユーザ通知機能を現状の設定のままで自動運転を行う場合は、“PowerChute *plus* のユーザ通知を残したまま、自動運転を行う”を選択します。

- ◎ Step1 で“PowerChute Business Edition と連携して自動運転を行う”を選択した場合、PowerChute Business Edition と連携させるために必要なソフトウェア及びサービスがインストールされているかどうかが表示されます。連携を行うのに必要なすべてのソフトウェア及びサービスがインストールされているか、SNMP サービス及びESMPRO/UPSManager サービスとの接続確認を行うことができます。それらの接続が成功した場合はStep3に進みます。

(注意)

以下のソフトウェアが、未インストールまたはサービス停止中の場合、以降の作業を行うことができません。

PowerChute Business Edition エージェントサービス
UPSSleep.exe (PowerChute Business Edition オプション)
ESMPRO/UPSManager サービス
SNMP サービス

<SNMP サービスとの接続確認>

OS のサービスマネージャより、SNMP サービスの「プロパティ」→「セキュリティ」
→「受け付けるコミュニティ名」に登録したコミュニティ名を入力して、
「接続確認」ボタンを選択して、接続確認を行います。

<ESMPRO/UPSManager サービスとの接続確認>

「接続確認」ボタンで、ESMPRO/UPSManager サービスとの接続確認を行います。

- Step1 で“ESMPRO/UPSController と連携して自動運転を行う”または“UPS を使用せずに自動運転を行う”を

選択した場合はStep3に進みます。

選択が完了したら、「次へ」ボタンを選択します。

Step3

これまでの設定内容が表示されます。

「完了」ボタンを選択すると、ESMPRO /AutomaticRunningController の動作環境の設定作業は終了です。

- PowerChute *plus* 連携の場合は、連携前の設定情報がESMPRO/AutomaticRunningController の内部情報として組み込まれ、新たにESMPRO/AutomaticRunningController 連携のための設定がPowerChute *plus* に行われます。PowerChute *plus* でコマンドファイル実行機能を使用していた場合には、その設定情報も取り込まれます。使用していたコマンドファイルの変更や削除が必要になった場合には、「PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除」(p. 18)を行い、変更したいコマンドファイルの設定を確認・変更してから、改めてESMPRO/AutomaticRunningController とPowerChute *plus* の連携設定を行ってください。

「完了」ボタンを押すと、ESMPRO/AutomaticRunningController サービスが再起動され、「ESMPRO_AC 環境設定ウィザード」の設定内容が変更されます。

3.5.2 PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除（「設定情報を元に戻す」ボタン）

「設定情報を元に戻す」ボタン（図5の②）を押すと、ESMPRO/AutomaticRunningController 連携の設定情報が削除され、PowerChute *plus* の設定が連携前の設定に戻ります。

3.5.3 マルチサーバ構成の設定（「マルチサーバの構成の設定」（AMCの起動）ボタン）

ESMPRO/AC Advance がインストールされている場合は、「マルチサーバ構成の設定（AMCの起動）」ボタン（図5の③）を押すと、「AC Management Console」が起動されます。

注意

ESMPRO/AutomaticRunningController をアンインストールする際には必ず設定情報の削除を行ってください。設定情報の削除を行わずにアンインストールを実行するとESMPRO/AutomaticRunningController をインストールする前の環境に戻すことができません。

第4章 注意事項

ESMPRO/AutomaticRunningController を使用する際は、次の点にご注意ください。

4.1 セットアップ関連

- (1) Smart-UPS 相当無停電電源装置を自動電源制御装置として使用するためには、「PowerChute *plus* (Ver5. 1. 1J 以降)」と UPSSleep が必要です。PowerChute *plus* と UPSSleep のインストールを先に行ってください。

- (2) 多機能UPS を自動電源制御装置として使用するためには、以下の「ESMPRO/UPSController」が必要です。ESMPRO/UPSController のインストールを先に行ってください。

- ・ESMPRO/UPSController Ver2.0 以降推奨
(ESMPRO/UPSController Ver1.2 以降)
(ESMPRO/UPSController Ver1.1 + ESS RL97/09 以降の修正情報(RUR) の適用)
(ESMPRO/UPSController Ver1.0 + ESS RL97/09 以降の修正情報(RUR) の適用)

- (3) PowerChute *plus* (Ver5. 1. 1J 以降) をインストールする際は、必ずUPSSleep のインストールも実行してください。

UPSSleep がインストールされていない場合、ESMPRO/AutomaticRunningController の PowerChute *plus* 連携による自動運転を正常に実行することができません。

- (4) PowerChute *plus* やESMPRO/AutomaticRunningController をインストールしたあとでUPSSleep をインストールすると、PowerChute *plus* からESMPRO/AutomaticRunningController の設定情報がすべて削除されます。UPSSleep をインストールした場合は、必ず「**ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定**」を実施してください。

- (5) ESMPRO/ServerManager の統合ビューアから、ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザインターフェイスを起動する場合は、「ESMPRO/ServerManager」のインストールを先に行う必要があります。

4.2 運用関連

- (1) サーバとしてWindows 2000 またはWindows Server 2003 をご使用になる場合、コントロールパネルの「電源オプション」機能の「休止状態のサポート」はOFF（初期状態）にしてください。
「休止状態」になった場合、ESMPRO/AutomaticRunningController によるサーバの自動運転は、制御不能になります。
- (2) 多機能UPSをご使用の場合、自動運転実行中はAUTO/LOCALスイッチは必ずAUTOの状態でご使用ください。
- (3) 自動電源制御を行っている際は、サーバ本体のパワースイッチを使用して電源を切断しないでください。
もしサーバ本体のパワースイッチにより電源切断を実行した場合、次の電源自動投入は行われません。
手動により電源投入・切断を行う場合は、多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチと、ON/OFFスイッチを使用するか、GUIによるシャットダウンかシャットダウンアイコンを使用してください。（Smart-UPSをご使用の場合は、ON/テストボタン で電源投入を行ってください。なお、Smart-UPSのOFFボタン を押すと、シャットダウンが行われずそのまま電源が切断されますので、ご注意ください。）

Smart-UPS相当無停電電源装置をご使用の際は本体サーバのOSストール等が発生した場合は、以下の手順で行ってください。

- ① Smart-UPSのOFFボタンを押します。（ここで、本体サーバの電源がOFFされます。）
- ② Smart-UPSのON/テストボタンを押します。（ここで、本体サーバの電源が投入されます。）

本体サーバのOSストール等が発生し多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチやON/OFFスイッチに反応しない場合は、サーバのリセットスイッチにより復旧させるか、あるいは以下の手順で多機能UPSのUPS ENABLEスイッチを操作してください。

- ① 多機能UPSのUPS ENABLE を OFF にします。（ここで本体サーバの電源が切断されます。）
 - ② 多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチをLOCAL にします。
 - ③ 多機能UPSのUPS ENABLE を ON にします。
 - ④ 多機能UPSのON/OFFスイッチを1秒程度押下します。（ここで本体サーバの電源が投入されます。）
 - ⑤ 多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチを AUTO にします。
- (4) ESMPRO/AutomaticRunningControllerユーザインターフェイスで行う操作は、Administratorsグループに所属しているユーザでのみ行うことができます。

- (5) スケジュール作成でワイルドカードを使用した毎日設定を行う場合、あるいは、曜日指定で一週間の連続運転を設定する場合には、通常指定は運転休止にする事を推奨します。

「ESMPRO_AC ヘルプ」情報の「ご使用にあたってのご注意」もご覧ください。「ESMPRO_AC ヘルプ」はスタートメニューから起動することができます。

4.3 ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視関連

- (1) クライアント監視対象への Client 監視機能のインストールおよびアンインストールは、同一ユーザで行ってください。

- (2) インストール中に下記のようなエラーが表示された場合は、下記セットアップ手順を行ってください。

エラー内容：

ファイルのコピー操作に失敗しました。— ディスクに書いたバイトが不正です。— コピー元ファイルまたはコピー先ファイルが破損している可能性があります。ChkDiskを使用してください。

コピー元 i:\ct13d32.dll

コピー先 c:\windows\system\ct13d32.dll

セットアップ手順：

- ① 一度セットアップを終了してください。
- ② cmsetup.exeと同じディレクトリ下にあるct13d32.dllを、エクスプローラ等を使用して下記ディレクトリにコピーしてください。
 - %Windows%のシステムディレクトリ\%system32 (Windows NTの場合)
 - %Windows%のシステムディレクトリ\%system (Windows 95/98の場合)
- ③ 再度、インストールを行ってください。

- (3) Windows 95/98 をご使用の環境で、ファミリログオン機能⁴を使用している場合には下記事項にご注意ください。

- ① ファミリログオン機能の設定によっては、ユーザが個別にスタートメニューを持っている場合があります。そのユーザでClient監視機能をインストールすると、そのユーザでのみClient監視機能が使用可能になります。
- ② 個別のスタートメニューを持っていないユーザでClient監視機能をインストールした場合は、個別のスタートメニューを持っていない全ユーザで、Client監視機能が使用できます。
- ③ 個別にスタートメニューを持っている複数のユーザでClient監視機能を使用する場合は、そのユーザ毎にインストールを行ってください。（2回目以降は上書きインストールになります。）
- ④ 個別にスタートメニューを持っていない全てのユーザと、個別にスタートメニューを持っている任意のユーザで、Client監視機能を使用する場合は、個別にスタートメニューを持っていない1ユーザと、個別にスタートメニューを持っている任意のユーザで、インストールを行ってください。（2回目以降は上書きインストールになります。）
- ⑤ 複数のユーザでインストールを行った後、アンインストールする場合は、インストールを行ったユーザでアンインストールを実行してください。その場合、他のインストールを行った

⁴ Windows 95/98 をご使用の場合に「コントロールパネル」[ユーザー]を選択することによって、個人用に「デスクトップ」、「スタートメニュー」等の項目を設定することができる機能です。

ユーザのスタートアップに“ESMPRO_AC Client”ショートカットが残ってしまいます。設定の「タスクバーとスタートメニュー」の中の、「[スタート]メニューの設定」の削除にて、スタートアップに登録されている“ESMPRO_AC Client”のショートカットを個別に削除してください。

- ⑥ 個別にスタートメニューを持っていないユーザが複数存在するような環境で、ユーザ毎にインストールを行うなどの操作を行った場合、エクスプローラでエラーが発生することやインストーラがストール状態になることがあります。そのような場合は、以下の手順を実行してください。

- 1) Ctrl+Alt+Delete キーを押して「プログラムの強制終了」ダイアログを起動します。
- 2) 「ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能セットアップ」を選択し、「終了」を実行します。
- 3) 再び Ctrl+Alt+Delete キーを押して「プログラムの強制終了」ダイアログを起動します。
- 4) 「ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能セットアップ」が残っていないか確認してください。もし残っている場合には、2)と同様になくなるまで「終了」を繰り返します。
- 5) システムを再起動してください。

4.4 PowerChute *plus* 連携関連

PowerChute *plus* 連携による自動運転が正常に行われない場合は、PowerChute *plus* のインストールディレクトリ下にある pwrchute.err ファイルを確認してください。

不具合が発生した日のシステムの起動時刻において、以下のような内容が記録されている場合は障害回避手順を実施してください。

pwrchute.err ファイル

01/11/23 16:22:59 スクリプトファイル(C:\AUTORC\%pcp_cmd%ac_start.bat)が見つかりません。

障害回避手順

- ① PowerChute *plus* を起動してください。
- ② 「構成」→「イベントアクション」を選択します。
- ③ イベント一覧から「UPS 通信確立」を選択し、「コマンド ファイル実行」を有効にします。
- ④ 「オプション」ボタンを押し、実行するコマンドファイルの設定を行います。
- ⑤ ESMPRO/AutomaticRunningController が登録している情報を以下のように変更してください。
<変更前>
%ESMPRO/AC のインストールフォルダ%\pcp_cmd%ac_start.bat

<変更後>

%PowerChute plusのインストールフォルダ%\ac_start.bat

設定情報を変更後、PowerChute plusを終了します。

- ⑥ ④の登録内容が有効になるように、ac_start.batを⑤で記述している<変更前>の場所から、<変更後>の場所にファイルコピーしてください。
- ⑦ システムの再起動を行ってください。
システム再起動後に、本設定内容が有効になります。

4.5 ESMPRO/UPSManager(PowerChute Business Edition セット)連携関連

(1)ESMPRO/UPSManager(PowerChute Business Edition)と連携して自動運転を行う動作環境を構築する場合は、以下のソフトウェアがインストールされている必要があります。

ソフトウェア名	インストール先
PowerChute Business Edition v. 6.1 エージェント	ローカルコンピュータ
PowerChute Business Edition v. 6.1 コンソール	ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータ
PowerChute Business Edition v. 6.1 サーバ	ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータ
PowerChute Business Edition v. 6.1 UPSSleep.exe (PowerChute Business Edition オプション品) ※1	ローカルコンピュータ
ESMPRO/UPSManager Ver2.0以降 サーバ	ローカルコンピュータ
SNMP サービス	ローカルコンピュータ

※1 PowerChute Business Edition v. 7.0 をご使用の場合、PowerChute Business Edition エージェントをインストールすると一緒にUPSSleep もインストールされます。

(2)停電発生時のシャットダウン開始時間は、PowerChute Business Edition 「コンソール」 から「デバイスのプロパティ」画面の「シャットダウン」→「電源障害」→「電源障害時のシャットダウン開始」で設定してください。

(3)スケジュールの設定は、ESMPRO/AutomaticRunningController のみで行ってください。PowerChute Business Edition 「コンソール」 では、設定を行わないでください。PowerChute Business Edition でスケジュール登録すると、連携動作が正常に動作しません。

(4) 電源切断猶予時間とは、OS シャットダウン開始後、UPS 装置からの電源供給が停止するまでの時間についての設定項目になります。この設定値が短い場合、シャットダウン途中でUPS 装置からの電源供給が停止され、システムに重大な障害が発生する可能性があります。必ず、運用されているシステムに

適した値になっているかを確認し、変更の必要がある場合は設定値を変更し、運用してください。

OS のシャットダウンに必要な時間はシステム毎に異なるため、設定値は実環境のサーバを使用して OS のシャットダウン時間を複数回計測し、その結果を十分に超える時間を設定してください。

<PowerChute Business Edition v. 6.1 の場合>

「デバイスのプロパティ」画面の「シャットダウン」→「シャットダウンシーケンス」から「OS のシャットダウンに必要な時間」に値を設定してください。

<PowerChute Business Edition v. 7.0 の場合>

「デバイスのプロパティ」画面の「シャットダウン」→「シャットダウンシーケンス」から「シャットダウンシーケンスの設定」を選択した後に表示されるウィンドウの、「コマンドファイルの設定」画面(後述)の次の画面(バーグラフが表示される画面)にて、“OS”を選択した状態での「期間」の値で設定します。

(5) ESMPRO/AutomaticRunningController において、「電源異常切断時に登録ジョブを起動する」を有効にする場合には、PowerChute Business Edition 「コンソール」からの設定も行います。

<PowerChute Business Edition v. 6.1 の場合>

「デバイスのプロパティ」画面から「シャットダウン」→「シャットダウンシーケンス」を選択し、「OS のシャットダウン時に実行するコマンドファイルの選択」で default.cmd を指定してください。また、「コマンドファイル実行所要時間」には、ESMPRO/AutomaticRunningController で設定した電源異常切断時に実行する登録ジョブが完了するまでに必要な時間を設定してください。

<PowerChute Business Edition v. 7.0 の場合>

「デバイスのプロパティ」画面から「シャットダウン」→「シャットダウンシーケンス」から「シャットダウンシーケンスの設定」を選択した後に表示されるウィンドウの、「コマンドファイルの設定」画面で default.cmd を指定してください。そして次の画面(バーグラフが表示される画面)にて、“コマンドファイル”を選択した状態で「期間」の値を、電源異常切断時に実行する登録ジョブが完了するまでに必要な時間に設定してください。

(6) ESMPRO/AutomaticRunningController において、「停電時のクラスタシャットダウン」を有効にする場合には、上記(5)の手順と同様にコマンドファイルに default.cmd を設定しますが、「コマンドファイル実行所要時間」または「“コマンドファイル”の期間」の値には、ESMPRO/AutomaticRunningController で設定した停電時のクラスタシャットダウンのタイムアウト時間以上の値を設定してください。

(7) PowerChute Business Edition の再インストールを行った場合は、PowerChute Business Edition の「コンソール」において、上記内容を再設定する必要があります。

(8) PowerChute Business Edition の使用方法につきましては、PowerChute Business Edition に付属のマニュアルを参照してください。

4.6 ハードウェアコンフィギュレーション関連

「ESMPRO_AC 環境ウィザード」により、ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境として、“UPS を使用せずに自動運転を行う”を選択した場合、ESMPRO/AutomaticRunningController を起動し、「ハードウェア」を選択すると、以下の「ハードウェアコンフィギュレーション」画面が表示されますが、ご使用の環境によっては、この画面が表示されず、異常終了してしまう場合があります。



この場合、以下に示す方法を実施してください。

[Windows 2000、WindowsXP、Windows Server 2003 の場合]

- 複数の LAN カードを使用している環境では、WOL(WakeOnLAN)機能を利用する LAN カード以外を無効にした状態で、「ハードウェアコンフィギュレーション」画面を起動してください。

LAN ケーブルを外す、または[コントロールパネル]－[ネットワークとダイヤルアップ接続 (Windows Server 2003 の場合は「ネットワーク接続」)]から、無効にするローカルエリア接続を選択し、「無効」にしてください。

「ハードウェアコンフィギュレーション」画面にて設定終了後は、LAN ケーブルを接続する、または[コントロールパネル]－[ネットワークとダイヤルアップ接続]から、無効にしたローカルエリア接続を選択し、「有効」に戻します。

[Windows NT4.0 の場合]

- 複数の LAN カードを使用している環境では、WOL(WakeOnLAN)機能を利用する LAN カード以外を無効にした状態で、「ハードウェアコンフィギュレーション」画面を起動してください。

[コントロールパネル]－[ネットワーク]－[バインド]で「すべてのアダプタ」を選択し、無効にする LAN カードを無効にして OS を再起動してください。

「ハードウェアコンフィギュレーション」画面にて設定終了後は、[コントロールパネル]－[ネットワーク]－[バインド]で「すべてのアダプタ」を選択し、無効にした LAN カードを有効にして OS を再起動してください。

(※なお、本現象は、RL2003/03 で修正済みです。)

4.7 通信ポート番号関連

使用するポート番号は、以下の通りです。

[ESMPRO/AutomaticRunningController (Ver2.2 以降)]

- 4000 [UDP] (変更可 [0 ~ 32767]) : クラスタシステムの時にご利用
- 3998, 3999 [UDP] (変更可 [0 ~ 32767]) : Client 監視機能を実行時、使用

[ESMPRO/AC Enterprise (Ver3.0 以降)]

(AC Management Console を使用した N8180-32A (旧 : N8580-32) を使用するマルチサーバ構成、冗長電源構成時)

- 161, 162 [SNMP] (固定) : 制御端末と UPS 装置が別セグメント時にご利用
- 6000 [UDP] (変更可 [0 ~ 32767]) : 制御端末、連動端末間の通信に使用

[ESMPRO/AC Advance]

- 6000 [UDP] (変更可 [0 ~ 32767]) : 制御端末、連動端末間の通信に使用

4.8 共有フォルダ関連

ESMPRO/AutomaticRunningController では、ネットワーク機能を提供するために共有ディレクトリを設定しています。サーバのセキュリティ強化を行う場合など、共有ディレクトリを見直したり、アクセス権を変更する際には以下を参考にしてください。

ディレクトリ名	共有名	デフォルトのアクセス権
(インストールディレクトリ)¥DATA	ARCDATA	everyone フルコントロール

セキュリティ強化時の推奨アクセス権 : administrator フルコントロール

「ARCDATA」の共有ディレクトリは、GUI をサーバ以外からリモートで行う場合に使用します。サーバ上でのみ GUI を使用する場合には、この共有を解除しても問題ありません。

ディレクトリ名	共有名	デフォルトのアクセス権
(インストールディレクトリ)¥CMSETUP	CMSETUP	everyone フルコントロール

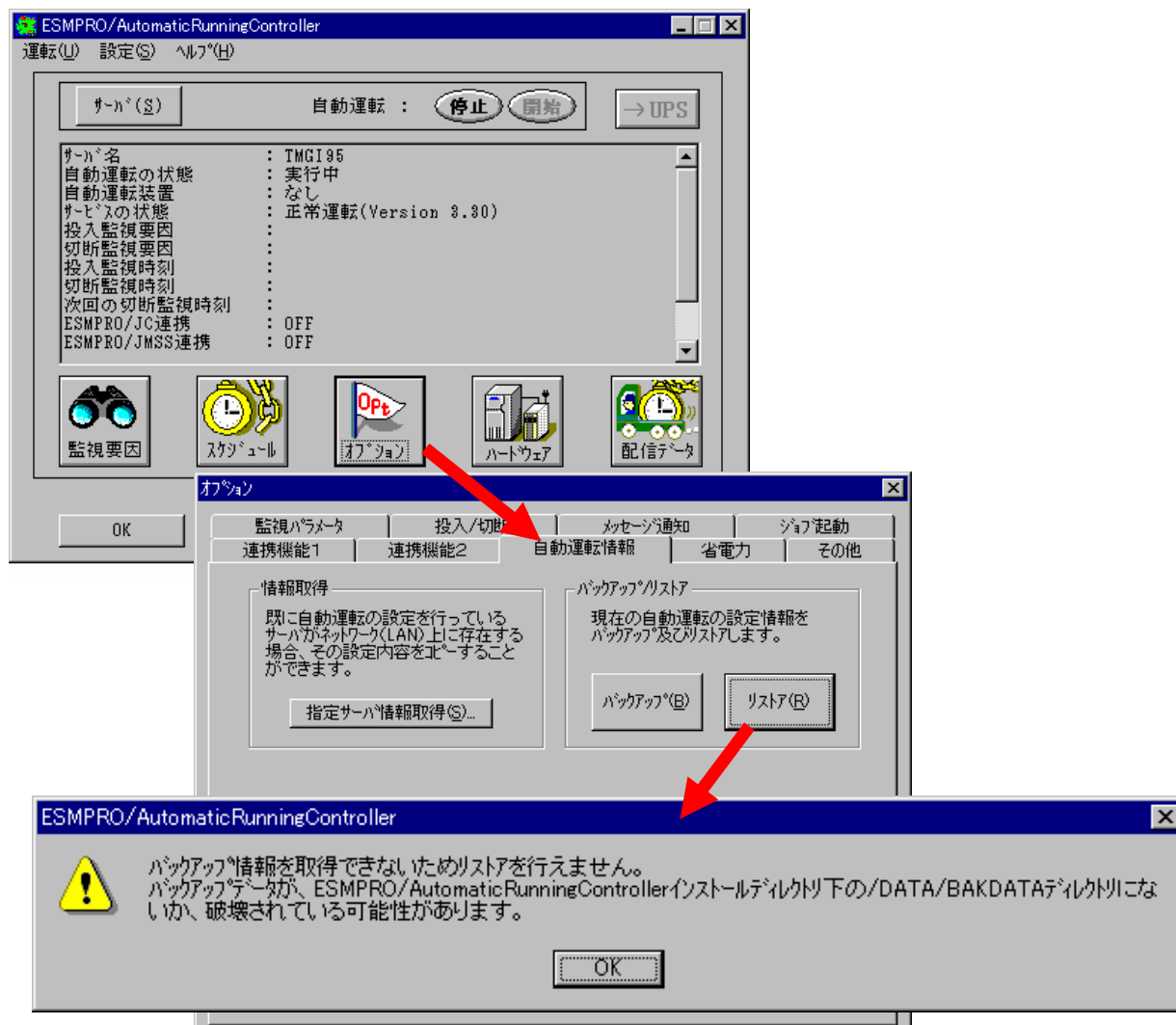
セキュリティ強化時の推奨アクセス権 : everyone 読みとり

「CMSETUP」の共有ディレクトリは、LAN 投入・切替監視に Client 監視機能を使用する場合に、クライアントをセットアップする為に使用します。Client 監視機能を使用しない場合には、この共有を解除しても問題ありません。

(※ESS RL2003/06 より、デフォルトのアクセス権を Administrators フルコントロールに変更しました。これにより、マネージャから操作する場合も、Administrators 権限が必要になります。)

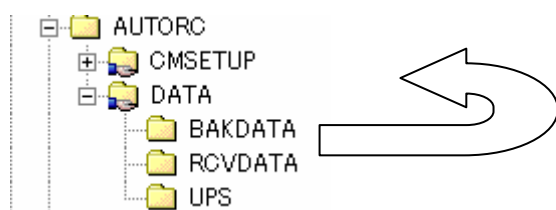
4.9 バックアップ/リストア関連

ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.3 等をインストールして UPS 装置を使用しないシステムで運用する場合には、ESMPRO/AutomaticRunningController GUI の以下の画面で設定ファイルのバックアップ/リストアは利用できません。



UPS 装置を利用しないシステムでは、以下のディレクトリ (ESMPRO/AC インストールディレクトリ下の\DATA\BAKDATA) をエクスプローラなどにより任意のディレクトリへコピーしてバックアップし、リストアする際は、コピーしたディレクトリを ESMPRO/AC インストールディレクトリ下の\DATA ディレクトリにコピーすることで回避可能です。

リストアしたあとは、サーバを再起動してください。



(※なお、本現象は、UPDATE (ESMARC-033-004) で修正済みです。)

4.10 AC-LINK 関連

UPS を使って自動運転を行う場合は、サーバ装置の BIOS の設定で、AC-LINK を「Power ON」にしておいてください。BIOS の設定変更の方法については、サーバにより異なりますので、サーバ本体添付のマニュアルを参照してください。

なお、AC-LINK は、サーバ機種により「After Power Failure」と記載されている場合があります。

4.11 アンインストール関連

アンインストール後、スタートメニューにショートカットが残ってしまう場合があります。その場合は、お手数ですが、エクスプローラなどからショートカットを手動で削除してください。

第5章 障害発生時には

障害発生時には、お手数ですが、以下の情報を採取してください。

- ・ESMPRO/AutomaticRunningController ログ
- ・イベントログ
- ・ESMPRO/UPSManager のログ (Smart-UPS 使用時のみ)
- ・多機能UPS ログ (多機能UPS 使用時のみ)
- ・ESMPRO/UPSController ログ (多機能UPS 使用時のみ)
- ・PowerChute *plus* のログ (PowerChute *plus* 連携による自動運転を行なっている場合)
- ・PowerChute Business Edition のログ (ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Edition セット) による自動運転を行なっている場合)
- ・バージョン情報

5.1 ESMPRO/AutomaticRunningController ログ

(1) サーバのログ採取方法

①ESMPRO/AutomaticRunningController メインメニューのサーバボタンを選択すると、以下のサーバ指定ダイアログが表示されます。



②サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、

ESM/PC MAINT

と入力し、OK ボタンを選択すると、以下のメンテナンスダイアログが表示されます。



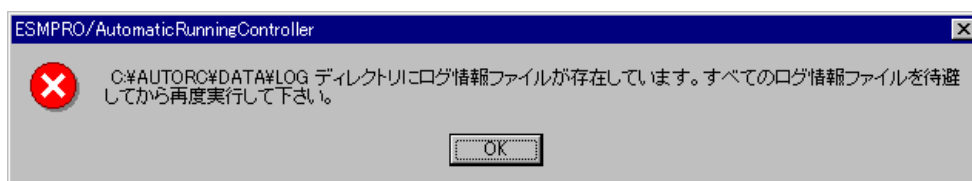
- ③ “ログセーブ開始(S)” ボタンを選択してください。ログ採取が開始されます。ログ採取が終了すると、以下のダイアログが表示されます。

ログ採取正常終了メッセージ

ログ採取正常終了のメッセージです。④の作業を実行してください。



ログ採取異常終了メッセージ



上記のエラーメッセージが表示された場合、既にログファイルが存在することが考えられます。ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA\LOG 下にログファイルが存在する場合は、ファイルを退避するか削除して、再度①からの操作をやり直してください。

- ④採取されたログのファイルは、ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA\LOG 下に置かれます。

エクスプローラ等により、DATA\LOG ディレクトリごと、FDに採取してください。DATA\LOG 下に採取されるファイルは、採取するタイミング/状態によって異なります。通常は1MB以内ですが、スケジュールの設定等によって異なります。

(スケジュールの有効期間が長い場合、登録するスケジュール項目が多い場合などは、ログファイルのサイズが大きくなります。)

また、ESMPRO/AC Enterprise がインストールされている場合、ログファイルのサイズが最大16MBになることもあります。

注意: ESMPRO/AutomaticRunningController と ESMPRO/AutomaticRunningController Enterprise がインストールされている場合は、DATA\LOG ディレクトリ下のログファイル以外に以下のログファイルもFDに採取して

ください。

- ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ%CGI%DATA ディレクトリ下のファイルすべて

Readme : サービスおよびGUI の動作不良のため、上記操作でのログ採取できない場合は、以下の方法で採取をお願いいたします。

- ① エクスプローラおよびファイルマネージャ等を使用してください。
- ② ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ\data ディレクトリ下のすべてのファイルを採取してください。
- ③ ESMPRO/AutomaticRunningController と ESMPRO/AutomaticRunningController Enterprise がインストールされている場合は、②のファイル以外に下記ファイルを採取してください。
 - ・ ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ%CGI%DATA ディレクトリ下のファイルすべて。

(2) Client 監視を行っているクライアントのログ採取方法

ESMPRO/AutomaticRunningController Ver2.2以降のLANによるClient監視で不具合が発生した場合は、(1)のログ他にClient監視機能をセットアップしたClient側のコンピュータからClient監視機能インストールディレクトリ(規定値:CMODULE)下の下記情報ファイルをFDに採取してください。下記データファイルは全部で1MB以内ですが、ジョブの設定等によって異なります。

ACNETSVR.LOG
ACNETSV.APC
CLIENTD.APC
ONJOB0.APC
:
ONJOB7.APC

連動サーバ数によってファイル数が異なります。

5.2 イベントログ

◆Windows NT®の場合

- ① 管理ツールグループのイベントビューアを起動し、メニューバーでログを指定し、その中の、**アプリケーション**を選択します。
- ② もう一度、**【ログ】**を指定し、**【名前をつけて保存】**を選択してください。
- ③ ファイル名をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名エディットボックスにログセーブファイル名を入力してOKボタンを選択してください。ログがセーブされます。
- ④ セーブしたファイルをFDに採取してください。
- ⑤ 同様にして、システム(メニューバーでログを指定し、その中の、**システム**を選択)のイベントログも採取してください。

◆Windows® 2000、Windows XP およびWindows Server 2003 の場合

- ① **(Windows 2000、Windows Server 2003)** [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [管理ツール] のイベントビューアを起動します。
- ② **(Windows XP)** [スタート] → [コントロールパネル] → ([パフォーマンスとメンテナンス]) → [管理ツール] のイベントビューアを起動します。
- ③ ツリーで**アプリケーションログ**を表示させ、**【操作】**を指定し、**【ログファイルの名前を付けて保存】**を選択します。
- ④ ファイル名をつけて保存ダイアログが表示されたら、ファイル名エディットボックスにログセーブファイル名を入力して「保存ボタン」を選択してください。ログがセーブされます。
- ⑤ セーブしたファイルをFDに採取してください。

⑤同様にして、システム（ツリーでシステムログを指定）のイベントログも採取してください。

※ イベントログのサイズは設定によって異なりますが、各FD1枚ぐらいが目安です。

5.3 クラスタシステムでのログ採取時の注意

クラスタシステム構成で自動運転を行っていて、障害が発生した場合は、クラスタを構成するすべてのサーバで障害情報を採取してください。その場合、現用系、待機系の区別を明記しておいてください。

5.4 ESMPRO/UPSManager のログ採取

ESMPRO/AutomaticRunningController での障害の際に、自動運転に関する障害で Smart-UPS が原因と思われる障害が発生した場合は、ESMPRO/AutomaticRunningController で採取する情報以外に UPS 関連のログ情報も必要となりますので、あわせて採取をお願いいたします。

UPS 関連ログ情報の採取方法につきましては、ESMPRO/UPSManager の資料を参照ください。

5.5 ESMPRO/UPSController のログ採取

ESMPRO/AutomaticRunningController での障害の際に、自動運転に関する障害で多機能 UPS が原因と思われる障害が発生した場合は、ESMPRO/AutomaticRunningController で採取する情報以外に UPS 関連のログ情報も必要となりますので、あわせて採取をお願いいたします。

UPS 関連ログ情報の採取方法につきましては、ESMPRO/UPSController の資料を参照ください。

5.6 PowerChute *plus* のログ採取

ESMPRO/AC での障害の際に、PowerChute *plus* 連携による自動運転を行なっている場合は、ESMPRO/AC で採取する情報以外に PowerChute *plus* のログ情報も必要となりますので、あわせて採取をお願いいたします。

PowerChute *plus* のログ情報の採取方法につきましては、PowerChute *plus* の資料を参照ください。

5.7 PowerChute Business Edition のログ採取

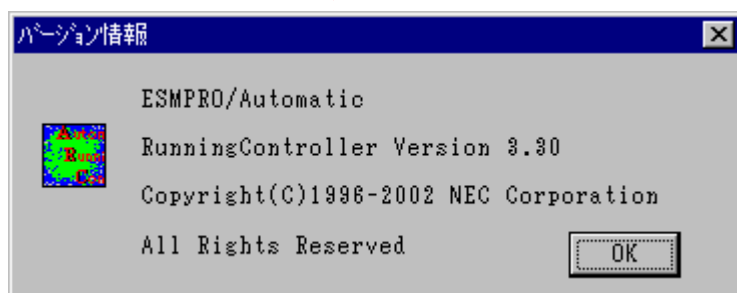
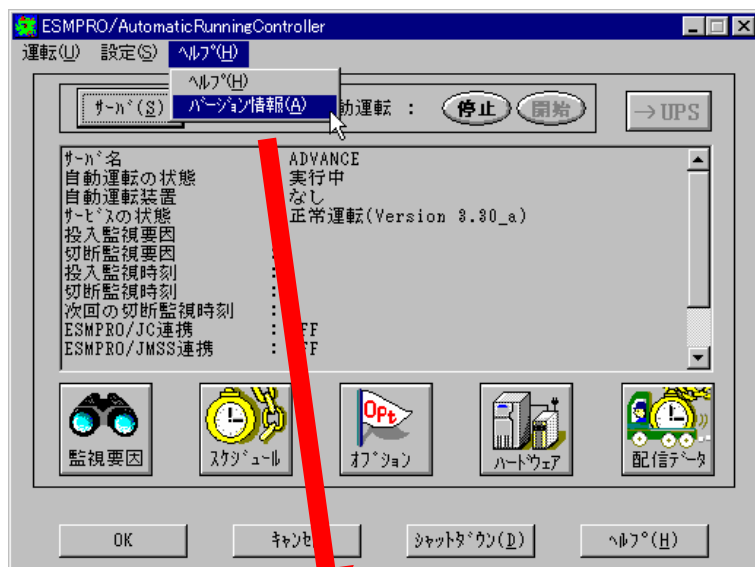
ESMPRO/AC での障害の際に、ESMPRO/UPSManager (PowerChute Business Edition セット) による自動運転を行なっている場合は、ESMPRO/AC で採取する情報以外に PowerChute Business Edition のログ情報も必要となりますので、あわせて採取をお願いいたします。

PowerChute Business Edition のログ情報の採取方法につきましては、「自動運転保守運用マニュアル - PowerChute Business Edition 編 -」を参照ください。

5.8 バージョン情報

障害発生時はログ以外に、アプリケーションのバージョン情報が必要です。ESMPRO/AutomaticRunningController のバージョン情報は、以下の手順で取得できます。

- (1) ESMPRO/AutomaticRunningController GUI を起動します。
- (2) メニューバーの「ヘルプ」→「バージョン情報」を選択します。



- (3) バージョン情報が表示されます。